

平成 26 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

平成26年度 学校評価

[重点取組について]

文武両道の校風を推進し、質の高い学習環境と部活動の活性化を図り、知徳体の調和的発達を具現化する。

通学区域拡大に向け、開かれた学校づくり、より良い授業によるより良い学校づくりを推進する。

平成26年度教育目標 1基礎学力および運動技能の向上 2授業力・生徒理解力の向上 3学校組織力の向上(研究テーマ)

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
基礎学力の向上を目指す ①授業を充実させる 体育科と情報科に新たな習熟度授業を実施し、TT授業の検証と見直しを行う。さらに、シラバスを活用し、教育課程の研究と見直しを行うとともに、授業時数の確保に努める。 ②教職員の資質を向上させる 教材研究と授業見学週間を充実させ、他校訪問を実施する。 生徒による授業アンケートを行い、授業に対する意識調査を行った。 ・市の学力向上事業を受けて、補習の充実や他校訪問を行い、指導力の向上を行った。	・学力向上事業を計画的に行う。 ・計画的な研究授業を行い、その指導案等の検証を行うことにより、よりよい授業の実施に向けて学校全体で取り組む。 ・実力テスト等の結果を踏まえ、生徒の実態に即した効果的な対策を教科会や学年会で行う。 ・特別支援教育の研修を計画的に実施し、特別支援教育を必要とする生徒への理解を促進する。 ・教職員の授業力向上が課題である。 ・部活動と補習の二者選択を生徒にさせることに対して課題が残る。		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
(1)道徳性の涵養に取り組み、良好な人間関係を育成する。 ①人権教育を推進し、いじめ体罰のない学校づくりに取り組む。 ②いじめアンケート等を実施し、生徒の実態把握を行うことができた。 ③野外教室・文化祭・体育祭・修学旅行等の学校行事への積極的な取り組みを促し、良好な人間関係の育成を図る。 (2)キャリア教育の充実を図り、希望進路の実現に向けた支援に取り組む。 ①進路講演会を企画・実施し、生徒の意識改革を行う。 ②総合的な学習の時間やロングホームルームを活用して、計画的なキャリア意識の醸成を図る。 ・進路指導部によるきめ細かなデータ分析が、担任の円滑な進路指導に繋がっている。	・進化する情報機器や変化の激しい情報社会への対応が迫られている。 人権学習の内容を見直し、生徒の実態に応じた道徳性の涵養に重きを置いた取組を行っていく。 ・いじめ防止や体罰禁止の重要性について、生徒及び教職員の共通理解を一層深化させていく。 ・問題行動を取った生徒への計画的、組織的な指導を行う。 ・情報リテラシーについてスマートフォンの使用と基本的生活習慣についての意識付けと学力低下の防止。 ・生徒自身によるライン等の使用による弊害の実態調査項目の作成 ・アンケート実施による学習時間、睡眠時間の確保への気づきを促す。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3

取組とその成果	課題と改善策
①定期健康診断を活用し、疾病の早期発見・早期治療および予防に努め、健康に関する自己管理の充実を図る。 ②保健委員会の自主的な保健活動を通して、健康に対する関心を高め、生徒自らが健康を保持増進する能力の育成に努める。 ③感染症(インフルエンザ等)について正しく理解させ、予防する能力や態度の育成を図る。 ④教職員間での生徒に関する情報交換や連携を密にして、生徒の心身の状況を的確に把握し、健康相談や教育相談を充実する。また、カウンセラーや保護者等と連携し、悩みを積極的に受けとめる校内の教育相談体制を整える。 ⑤特別な支援が必要な生徒について、それぞれの教育的ニーズを把握し、きめ細かく適切な教育支援を行う。校内委員会を中心に、関係機関との連携も積極的に行う。	・食育への取組が一部の教員による限定されたものになっている。 ・心因的な理由で授業に出られない生徒への対応に課題がある。 ・食育教育等、学校全体で組織的に取り組む。 ・保健だよりが効果的で、今後も継続する。 ・運動部活動のさらなる充実とレベルアップを図る。 ・氷ノ山登山やマラソン大会を継続し、体力向上の意識付けとする。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3

取組とその成果	課題と改善策
①安全教育等を通じ、登下校および校内での危険防止や事故の予防に万全を期すようにする。 ②AEDを含めた心肺蘇生法等の講習を実施し、安全を守る意識を高め、将来にわたって行動できる態度を育成する。 ③整備委員会活動や毎日の清掃活動を通して、清掃の徹底を図り、校内の美化に努め、オープンハイスクール等でも校内がきれいと言われるようになった。 ④校内施設の安全点検により、危険箇所の早期発見・早期修復を心がけ、安全で快適な学校生活ができる環境づくりに努める。 ⑤避難訓練や防災マニュアルを見直し、津波等の災害に対応できるようにする。	・自転車マナーの向上は見られるが、交通安全の更なる充実と自転車マナーの徹底を図る。 ・部活動や勉強で遅い時刻に下校する生徒の安全確保に課題がある。 ・防災安全教育の充実と徹底を図っていく。 ・安全点検と用具整備が確実に実行されており、今後もさらに充実させる。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3

取組とその成果	課題と改善策
開かれた学校づくりを推進する ①同窓会・地域・保護者・関係機関との連携を深めるとともに、学校評議員会の効果的な活用し、学校運営に反映できた。 ②オープンハイスクール・入試説明会を充実させ、教員による中学校訪問を積極的に行い、第2学区の中学校との連携を深め、受検希望者が増えた。 ③学校紹介DVDを効果的に活用する。 ④吹奏楽部等による地域フェスティバルへの参加や地域の文化祭等のポスター制作など、地域行事へ積極的に協力した。	・地域への情報発信の重要性や地域からの理解・支持されることの大切さを全職員が共通認識して個々の学校行事に取り組んでいく。 ・生徒による授業評価を共通の形で実施する方向で検討する。 ・学校ホームページを適宜更新し、内容を充実させていく。

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
①職員会議等の定例会議により、教職員間の情報の共有化を図る。 ②ビジョン会議を実施して、意見の言いやすい雰囲気作りに努める。 ③新たに策定した規約、申し合わせ事項の円滑な活用と見直しを行う。 ④生徒が相談しやすい環境の整備に向け、いじめ、体罰の根絶をめざし、特別支援教育の充実を図る。		・ビジョン会議を定例化し、充実させる必要がある。 ・教育目標への理解及び達成へ向けた取組に個人差がある。 ・日々の教育活動に、教育目標を反映させなければならない。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
①教職員の授業力向上のための公開授業の実施。 ②新着任の研究授業の実施。 ③異校種交流による研究協議の実施。 ④各学年・部のスムーズな連携と情報の共有を図るために、定例の校務運営委員会、職員会議、拡大部会、拡大学年会を実施し、教科会の充実を促進する。		・公開授業を活性化させ、研究協議の時間を持つことにより、授業力の向上を図っていく。 ・他校視察の情報の共有を効果的に実施する。 ・学年会、教科会の機会を増やし、情報の共有に努める。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>全教科(国、社、数、理、英、保体、芸、情)による授業アンケートを始めとして、様々な取り組みにより授業改善が積極的に推し進められている。これらの取り組みにより、生徒アンケートにおいて、授業について理解できていると答えた生徒が、37%(H24)→45%(H25)→49%(H26)と増加している。この取り組みが「学力向上事業」の一環として効果を上げることが期待する。 教職員の資質向上、授業方法の改善等に工夫が見られ、今後に期待大である。 生徒アンケートにおいて、授業理解や説明のわかりやすさのUPから、授業改善が図られたと思われる。ただ、昨年同様「教職員の授業力の向上が課題」とあるが、抽象的で明確な目標、指標がわからない。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>現代社会において、現実の人間関係を学ぶ場として学校は大きな役目を果たしている。生徒アンケートによると部活動で困ったことについて人間関係をあげたものが9%(H25)→14%(H26)保護者アンケートでは4%(H25)→10%(H26)と増加していることについて、注意を払う必要があるのではないだろうか。 進路実現については、現在おこなっているキャリア教育を継続して充実させていきたい。 基本的な生活習慣の確立には努力と成果が見える。</p>	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>毎月、保健便りを発行し、生徒に対して時期に応じた健康管理の留意点を示していることは、生徒への正しい知識の獲得に貢献している。 教職員間の生徒に関する情報交換を積極的に行っていることは非常に重要であり、カウンセラーや保護者との連携は学校の体制として評価できる。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>登下校時の自転車マナー向上は、先生方の指導の成果であるといえる。この指導を今後も継続して、事故を起こさせない努力を惜みず続けていきたい。 校内の安全点検を継続して行っており、危険箇所の早期発見は事故防止に大きく貢献している。 これまで、「何か事が発生」して対策・対応を行ってきたと思うが、安全確保に重点を置くのであれば、KY(危険予知)の考え方を取り入れ「事前に危険を予知・予測し対策・対応する」大切さを周知する取り組みを検討してはどうかと思う。</p>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>保護者・同窓会・地域・関係機関との連携を深めていることにより、地域に信頼された高校になっていることがわかる。これは、保護者アンケートで市尼に入学させてよかったと答えた方が過去3年で毎年ほぼ90%であることからいえる。また、生徒の同じ質問に関してよかったと答えた生徒が73%(H24)→77%(H25)→79%(H26)と順調に増加していることは、活気のある学校づくりが順調に進んでいることがわかる。 家庭・地域への働きかけが具体的で、その成果が保護者アンケートにもよくあらわれ、周囲から期待されている。保護者の満足度も高い。</p>	3
<p>■教育目標</p> <p>教育目標の達成に向けて、ビジョン会議を行っていることは評価できる。ビジョン会議から出された内容からアクション計画を策定し、具体的な達成目標を数値をあげて考えることが今後必要であるのではないだろうか。</p>	3
<p>■研究テーマ</p> <p>公開授業の実施など、積極的に取り組んでいることが評価できる。今後も計画的・継続的に授業改善に取り組んでいただきたい。</p>	3
■	
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B

集計表

I	
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3.5
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3
教育目標	3
研究テーマ	3
II	
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	3.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.5
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3
教育目標	2.5
研究テーマ	3
III	
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	0
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	0
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	0
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	0
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	0
教育目標	0
研究テーマ	0
IV	
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B